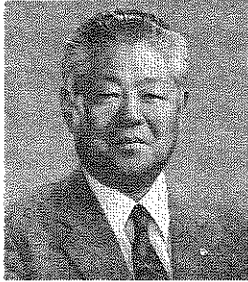


栃木県中学校長会報

あいさつ

栃木県中学校長会長
宇都宮市立一条中学校長
柳田 明



今年度は定期異動により、48名の中学校長先生方を送り出し、新たに49名の校長先生方をお迎えしました。本年度、私たち

172名は先輩方の築いて来られたこの会の伝統と業績を引き継ぎ、これを更に発展させねばならない責務を負うことになったわけで、私たちの責任の重大さを痛感します。

ところで、現下の中学校教育をとりまく諸問題、これに対する指摘と課題は実に多いのであります。

全国的に見ます時、校内暴力の嵐は過ぎ去りつつあるが、自殺、登校拒否等と形を変えて現われて来ており、残念ながら、教育荒廃などという私たちには聞くに堪えない言葉まで出ています。

本県の現状はどうか。中学校関係では、問題行動の数はやや減ってはいるが、質の点で悪質化、粗暴化しているとのこと。窃盗、恐喝、性非行、薬物乱用、生徒間暴力、登校拒否、自殺等の問題も起きており、オートバイ盗、バイク盗等、無免許運転にも繋がり、生命にも係わることもあるが、これは増える傾向にあるようです。

このようにまだまだ解決すべき問題は山積しています。私たちは、生命尊重の教育の推進、教育相談の充実、指導体制の確立、基本的生活習慣の形成のための指導、学校と家庭・地域社会との連携の強化等を推し進めていかなければなりません。

そして、教育正常県栃木の名にふさわしく、本来の教育を打ち立てねばならないのであります。

さて、教育改革に関する各種答申が昨年は相次いで出されました。中教審・臨教審・教課審等の

各答申の内容について、私たちもこれ等を真正面から受けとめ、研究・検討を深めて、日々の教育実践に当らねばならないと考えます。特に、生涯学習体系における中学校教育の意義と役割について深く認識し、基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育を一層充実させなければならぬと思うのであります。

また、今年度も、初任者研修試行が計16中学校で、25名の新規採用教員に対して実施されております。私たちの仲間の16名の校長先生方が、このことに対する種々の配慮や努力を払われております。この試行の成功を願うところです。

もう一つ、我々にとって最大の問題は、来たる10月20・21日の全日中栃木大会の運営があります。全国から1,700名の中学校長の参加を得て、宇都宮市文化会館を主会場として開催する本大会を是非とも成功させなければなりません。つきましては本県内172名の中学校長各位が何等かの役を持って、この運営に当る体制を整えました。どうぞ全校長先生方、それぞれのお立場において御協力、御尽力下さいますよう、よろしく願います。

ここで宇市教委の後藤教育長さんからうかがったお話の中から、その一つを御紹介いたします。

『学校が活性化して、いきいきと動いていくためのエネルギー源は何かというと二つある。一つは、その職場の雰囲気暖かなくてはならない。もう一つは、それぞれの職員が心の中から湧き出る主体性・自発性が必要である。雰囲気の暖かさを作るためには何が必要かということそれは長たる者の暖かさである。長たる者は一人一人の職員を暖かく包んでやり、受け入れてやること。暖かさと受容がリーダーシップである。また、やる気を育てるために長たる者は、先ずどんな仕事の出来ばえであってもその意欲を評価してやって、まずい部分を考えさせるスタイルをとったらどうだろう。長たる者は、いつもプラス思考型であってほしい。プラス思考をしていくことが大切である』

私たち校長が心していくべきことだと思います。

全日本中学校長会研究協議 会栃木大会開催に当って

栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立宮の原中学校長
柿沼敬二



このたび、県中学校長会副会長の大任の一端を担うことになり、責任の重大さを痛感し緊張しております。力不足であります。本会発展のため誠心誠意つとめてまいりたいと思いますので、会員各位のご指導・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

さて、ご存知のように、今年度は第39回全日本中学校長会研究協議会栃木大会が、「21世紀を拓く日本人を育成する中学校教育」を大会主題として開催される年であり、栃木県中学校長会にとり記念すべき年であります。また、今年度は、臨時教育審議会から第4次の最終答申が提出された翌年で、教育改革への歩みが進められつつあるときの大会であることから意義ある大会であると思っております。

現在、栃木県教育委員会・全日本中学校長会事務局をはじめ、教育諸機関等のご指導・ご援助をいただき、柳田明大会実行委員長を中心とし172名の本県会員の総力を結集し、大会の充実を期して、その準備に鋭意努力しているところであります。9月9日（金）に開催される県中学校長会研究大会当日の午後には、栃木大会実行委員会の5つの部ごとに、業務の準備状況や運営面等の細部にわたっての打合せ会をもつ予定にもなっております。

2,000名近くの参会者をお迎えし、本県中学校長会をはじめの全国大会の開催でありますので、とまどいや労力・精神面でも大変なことでありますが、会員一同頑張る大会を成功させ、本県中学校長会の歴史に記念ある一ページを加えたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

校長読書の心がけ

栃木県中学校長会副会長
芳賀町立芳賀中学校長
杉田浩二郎



私は校長になってから、次の三点を心がけて本を選び、読んだことを学校経営の中に生かしている。
①経営や組織について書いたり、論じたりしているもの。

②中学生の心の理解や、生徒指導に関するもの。
③人の生き方について書いたもの。特に伝記や人生論、人物論、実在の人物をモデルにした小説など。

①については、リーダーのあり方、部下の育て方、組織編成とその生かし方など大いに役立つ。私は戦争は嫌いであるが、組織のトップに立つ軍司令官のあり方は、校長として学ぶべき点が多い。

日露戦争の〇総司令官は実務を鬼才K総参謀長を信頼して任せ、作戦の大方針と決断を示して勝利を導いた。太平洋戦争のビルマインパール作戦の悲惨な敗北は、M司令官が我意を通し、スタッフ全員の反対を押し切って進めた結果であった。

生徒が生き生きと活動し、望ましい校風を築いていくようにするためには、校長が生徒の心を理解して、経営の方針を立てることにある。生徒指導について、校長がよく勉強をして、職員と共に考えていくと効果があがる。②については、こう考えて読んでいる。

③については、教育は人間の生き方の勉強が根底にあると思うので、自ら、先人の生き方を追体験して学びとろうとしている。「世に棲む日々（司馬遼太郎）」の吉田松陰、「静寂の声（渡辺淳一）」の乃木希典夫妻。一度忘れ去られたかのように思った先人の中に、実は、大切な宝がかくれている。獄中にあり、松下村塾にあり、人の長所を見つけ出して最大限に発揮させた松陰を思う。

昭和63年度各専門部・特別委員会の活動計画

◇ 調査部

1. 役員選出、事業計画について
昭和63年6月3日（金）宇都宮市立一条中学校で専門部会を開き、次のとおり決定した。

- (1) 役員
部長 池田 久（宇・泉が丘中）
副部長 若林 一義（下・国分寺中）
" 岩瀬 隆（那・箒根中）

- (2) 事業計画
① 中学校教育に関する調査の実施
② 県中学校長会及び各専門部の活動に必要な調査と資料の提供
③ 他県中学校長会、教育団体との資料交換
④ 調査結果や収集資料の配布

2. 中学校教育に関する調査について
この調査に当って、県教委の義務教育課、高校教育課の各先生方に多大の御協力をいただいたこと、また、各中学校の校長先生の協力、特に調査部の先生には、調査期間が短かく特段のお骨折りをいただき、心より感謝いたします。
この調査の集計は、10月に実施する全日中栃木大会に、全日中校長会より配布されます。

(参考)

比較項目	昭48.4.1	昭62.5.1	昭63.5.1	
給料	初任給(大学卒)	51,900円	136,400円	138,600円
	勤続10年	78,400円	211,600円	223,400円
	勤続20年	111,800円	316,800円	321,300円
	勤続36年(校長)	146,400円	414,200円	414,900円
旅費(1人当たり、年間)	24,100円	66,300円	67,800円	
校長退職年金(勲奨)	58才	60才	60才	
生徒数	78,836人	96,569人	94,771人	
教員数(校長、教頭、教諭、養護教諭等)	3,588人	4,583人	4,322人	

◇ 研修部

1. 6月3日宇都宮市立一条中学校において、第1回目の研修部会を開き、話し合いの結果、次のように決定した。

- (1) 役員
部長 安川 一男（宇・陽東中）
副部長 手塚 勝久（那・三島中）
" 茂呂 保雄（足・北中）

- (2) 事業計画
県中学校長会研究大会の企画
研究主題の確認
「21世紀を拓く日本人を育成する中学校教育」
研究大会係仕事分担（後日正副部長案へ協力）
県中学校長会研究集録の編集
全日中栃木大会の遂行協力

2. 第10回県中学校長会研究大会
期日 9月9日（金）
会場 栃木県教育会館（宇都宮市駒生町）
内容 (1)講演
演題「教育課程の改善に関する諸問題」
講師 全日本中学校長会総務部長
全日中教育課程検討専門委員長
井上輝夫先生

(2)全日中栃木大会準備全体会・部会
3. 第11集研究集録の編集
期日 12月10日（土）第1回編集会議
議題 掲載内容の検討
原稿依頼、原稿切等
4. 研究集録の配布 64.2.17(土)

◇ 編集部

去る6月3日、宇一条中で第1回編集部会を開きました。役員選出の後、本年度の行事予定を検討し、次のように決めました。

第2回編集部会、6月25日・69号発行について
第3 “ ”、11月12日・70 “ ”

※会場はいずれも宇・陽西中。

なお6月25日の会議で地区だよりは全地区を2回に分けて掲載することに決めました。64年度についてもこの順序でお願いする予定です。

69号 宇都宮・小山・上都賀・栃木・下都賀・北那須

70号 安佐・芳賀・塩谷・南那須・足利・河内
69号から「私の朝礼訓話」のコーナーを設けましたが宇都宮から順次お願いすることになりました(次号は小山地区の校長が担当)。

各県の会報をみてみますと、それぞれユニークなものがあり地域の特色が感じられます。それらを参考にして69号の発行について話し合いましたが良いものは今後に生かしていくつもりです。

全日中栃木大会につきましては県中学校長会会員総力をあげて最後の準備にあたっているところですが、よりいっそう大会を盛り上げていただくことをねらい、各部長さんからひとよせていただくことにしました(69号)。

なお編集部の役員は次のようになりました。

部長 大関 三良(宇・陽西中)
副部長 星野 享央(河・田原中)
“ 有澤 弘一(栃・栃木東中)

◇ 職員対策部

去る5月14日、本県中学校長会の昭和63年度定期総会が星が丘中において開催されました。

席上、62年度をもって退会された先輩校長へ永年の御苦労に対し、感謝状、記念品が贈呈されました。また、本年度の活動計画が確認されました。とくに、本年は、全日中栃木大会が宇都宮市にお

いて開催される記念すべき年になります。

職員対策部では、例年、30~40人の退会される方々のため、また現職会員の研修として、退職年金、退職金、共済医療制度その他退職後の生活設計等について研修会を年1回開催しております。

昭和63年度の事業として、去る6月3日宇都宮市一条中学校において、各部会が行われ、下記のように決定いたしましたのでお知らせします。

何かと御多忙ではありますが、多くの方々の御出席をお願いいたします。

1. 正副部長選出

部長 大竹 幸雄(宇・陽南中)
副部長 螺良 郁郎(芳・中村中)
“ 落合 武司(安・田沼東中)

2. 事業計画

会員研修会 昭和63年12月10日(土)

ア. 内容 講話と質疑

「退職後の生活設計その他」

イ. 講師 未定ですが、県教委の福利課の先生をお願いする予定です。

ウ. この研修会は福利厚生部と共催事業。

◇ 進路対策部

部長 關 平(宇都宮市立鬼怒中)
副部長 橋本 良平(佐野市立南中)
副部長 高藤 大(那須町立東陽中)

《昭和63年度活動計画》

1. 第1回部会研究会(主として公立高校関係)

とき 6月27日(月)

ところ ニューみくら

助言者 県教委高校教育課主幹廻谷郁夫先生
全 副主幹兼指導係長

桑野耕一先生

県教委義務教育課副主幹

渡辺紘夫先生

内容 (1) 昭和64年度公立高校入試について
(2) 公立高校の整備計画について

(3) その他

2. 第2回部会研究会(主として私立高校関係)

とき 9月中下旬ごろ

ところ 栃木県教育会館

助言者 県教委高校入試関係担当者
私立高校県内数校の学校長
県・文書学事課 私立高校担当者

内容 (1) 現中学3年生 生徒数、進路希望状況など、現状分析。
(2) 私立高校募集要項の骨子、生徒の状況、64年度の募集定員見込み
(3) 公立高校入試、推薦、面接等の導入見込み、課題など。
(4) その他

◇ 修学旅行部

部長 齋藤 操(宇・国本中)
副部長 影山 長八(宇・陽北中)
“ 菊地 治夫(足利・三中)

多様化する修学旅行

1. 修学旅行委員会の活動

先に実施した「中学校修学旅行の動向調査」のまとめからも指摘されたように、最近の修学旅行は内容が多様化し、スキー教室、様々な体験学習が取り入れられ多彩を極めていきます。このため、改めて修学旅行の目的を再認識し、この目的に適合する修学旅行の実施が望まれています。教育、経済、安全を目標とし、関東地区修学旅行委員会(栃木、茨城、群馬、埼玉、千葉)を組織し、今年で四半世紀を迎え、この間行政(文部省、運輸省)JR、寺社等の関係機関との折衝を続けて来ました。

2. 修学旅行の改善

修学旅行のあり方を求めて、関東修学旅行では毎年研究会が各県輪番制で行なわれています。昭和63年度は茨城県水戸市において11月25日(金)第5回全国修学旅行研究大会が開催されますので多

数の参加を希望いたします。

3. 輸送計画

昭和65年度の計画が11月4日(金)に決定します。栃木がトップになり、Aコースの帰路の時間はJRと折衝中で、中体連との関係も検討中です。

◇ 福利厚生部

昭和63年6月3日の部会において、本年度の正副部長並びに事業計画を次のように決定した。

1. 正副部長

部長 小倉 元介(宇・宝木中)
副部長 木下 和巳(那・西那須野中)
“ 岡田 弘(河・古里中)

2. 事業計画

(1) 63.6.3(金) 一条中

ア 役員選出

イ 事業計画案

ウ 事業計画推進について

(2) 63.9.3(土) 10:00 教育会館

「生徒手帳」編集会議

(3) 63.10.29(土) 10:00 教育会館

「中学生の安全」編集会議

(4) 63.12.10(土) 10:00 教育会館

会員研修会(講話)

ア 主題 「退職後の生活設計(仮題)」

イ 講師 未定

(5) 64.1.28(土) 10:00 ホテル丸治

ア 「新しい道」推進検討会

イ 本年度事業の反省と次年度事業計画について

◇ 生徒指導特別委員会

昭和62、63年度の両年度にわたり、本県中学校の生徒心得等(校則)の実態を明らかにし、その望ましいあり方をさぐるというねらいで、昨年

度は県内171校の中学校にアンケートをお願いした。

そのアンケートは、次の三つの視点から

- 各学校の生徒心得等にどのような取り決めがあるか。
- 学校のきまりとして、そのきまりがどの程度必要であるか。
- 生徒心得等の制定・改定の手続きはどのようになっているか。

まとめ、「昭和62年度 研究集録」(栃木県中学校長会)の紙上において報告した。(1年次)

本年度は去る6月29日(月)に県教育会館内中学校長会事務局室において、次のような事項をまとめよう話し合った。

- 具体的なきまりについて、生徒・教師・保護者では、それぞれどのような意識が働くか、この三者を比べてみたい。(アンケート方式)
- 校則の見直しに取り組んだ学校の事例をのせたい。
- 校則のあり方について若干の考え方を示してみたい。

これらの方向で8月29日(月)に委員会を開き、資料を持ちより検討をすすめ、本年12月にはまとめあげる予定である。

会員の皆様方にも、見直しについて、よい事例がありましたなら、ぜひ御協力くださるようお願いいたします。

◇ 教育改革特別委員会

1. 6月3日(金) 15時、一条中にて委員会を開き、組織及び活動について研究協議をする。

(1) 役員選出

- 委員長 阿部 豊 (宇・旭中)
- 副委員長 茂呂 保雄 (足・北中)
- “ 芳村 栄方 (塩・片岡中)

(2) 活動の方向について協議

- 昭62の「教育改革の検討」の成果について反省

- 本年度検討のテーマや方向について意見の交換を行う。

2. 7月8日(金) 15時、旭中にて委員会を開き、テーマの設定について意見の調整と活動計画について協議する。

(1) 検討のテーマを下記のようにする。

教育課程審議会答申に対応する学校経営一中学校での選択の拡大について一

(2) 活動の計画

- 8月29日(月) 委員会開催 旭中
 - 県内中学校に対し、選択の自校化の傾向をアンケート調査をするために、調査の項目・内容等の検討をする。
- 11月上旬 委員会開催 旭中
 - 調査票の内容について検討・印刷
- 11月下旬 調査実施
- 2月 委員会開催 旭中
 - 調査の結果・まとめ



新任校長のひとこと

『教師自身がいきいきと』

上河内村上立上河内中学校長
横 嶋 孝 夫

8年振りに学校に戻り、始業式、入学式とたて続けに全校生徒の前に立った。整然と並んでじっと私を見つめる生徒のいきいきした目、私は話をしていながら、次第に身が引き締まるような緊張感と何ともいえない感激を覚えた。

多くの生徒が青春の若いエネルギーを、勉強に運動部活動にぶつけている反面、学校は登校拒否をはじめとするもろもろの課題をかかえている。

あるテレビのドラマで、すし屋の主人が、「にぎるやつがピンピンと跳ねていなけりゃ、うめえすしは握れませんよ。」といていたが、いきいきした生徒を育てるには教師自身がいきいきしていなければいけないことを痛切に感じている。

『全へき研の会場校として』

藤原町立三依中学校長
佐 藤 権 司

県の北西端部、福島県境に近い。私の学校である。純朴な生徒と背後の家庭や地域に恵まれて、毎日が楽しい。

本校は、昭和64年10月に行われる全国へき地教育研究栃木大会の会場校としての役割が求められている。地域の課題が、学校経営とりわけ道徳教育に照射されていることが重要と考えている。

具体的には、地域の人と同じ生産活動を学校でも行う。伝統的なふるさと心を掘り起こして深く体験させること。これを、ふるさと活動・ふれ合い活動・道徳の時間を柱に進めている。

現実には、思うようには進まない。が、職員共々に最善の努力をしていきたい。一步ずつ、着実に。一日一日を大切にしたい。

『あいさつ人間、されど再びあいさつ人間へ』

茂木町立逆川中学校長
軽 部 亨

来る日も来る日も「あいさつ」に追われる。校長職とはこのようなものと諦めた。が、ふと我に返ると別の世界があった。

生徒を叱る教師の姿は誠に尊い。生徒を叱ることのできないナマクラ教師の多い中で、真剣に生徒をたしなめている教師に「生徒の叫びを真に聞きとれる教師の姿」を発見した。

あいさつ人間は、この真の教師たちと対話を続けることに一層の喜びを感じるとともに、彼等との対話の中から、あいさつのネタを探し出して、再びあいさつ人間として頑張ろうとしている昨今であります。

『躍動する学校をめざして』

塩原町立塩原中学校長
関 谷 次 男

先輩諸校長先生方からの祝福・激励のことばをいただき、新校長として塩原中に赴任した。校長としての心がまえ——あせってはいけない、耐えることが必要。特定の教師の声のみでことを決断するな。遠慮していると時だけが過ぎる、決断行動は早めに。地域・町の行事には万難を排して臨め。など、多くのご指導ご助言をいただいた。

幸にも、新任校は、地域の方々の協力態勢は絶大なものがあり、職員室は若さに溢れ、前向きで情熱的な雰囲気であった。生徒も明るくすばらしい子供たちである。感受性の最も強い中学生。「感動の時代」にふさわしい“生き方・体験”を学校生活の中で豊かに味わわせてやりたい。教師が燃え、生徒が躍動する学校をめざしたい。

昭和63年度新設校紹介

小山市立乙女中学校

校長 菅 沼 基 訓



本校は、間々田中学校（1,430余名）の過密解消のため本年4月1日に開校いたしました。

生徒数526、学級数14（内特1）、教職員数26（教員23、事務主事等3）の規模であります。

昭和62年6月9日に着工し、昭和63年4月4日に完工し、4月5日に市教委主催による開校式を挙行いたしました。

敷地面積4万5千㎡、用地費（含造成費）約5億円、校舎・体育館・プール等の建築費約15億円、教材・教具等の備品費約1億円等々21億円程度の建築費を要した訳になります。

本校の位置は小山市最南端、JR東北線間々田駅の西方約1K、国道四号線より約600mに位置した環境に恵まれた場所にあります。東方の丘陵地帯に市立博物館、寺院、公園等の建造物や木立ちが多く、三方は水田に囲まれ、西方には思川の清流があります。冬になると、南西方向に富士山を仰ぐことのできる絶好の地であります。

次に、本校の特色ある建築や施設・設備について簡単にご紹介いたします。

(1)銀黒瓦を使用した切妻の屋根

校舎棟2棟ともこのタイプの屋根で雨漏りの心配等がなくなりました。

(2)管理室は2階に据えた。

クラスルームは、3階建であり、2階に管理室を据えたことで生徒指導上便利です。

(3)木板をふんだんに使用した建築

校長室、多目的スペース、ランチルーム、生徒昇降口等には木板をふんだんに使用した建築で暖さを感じています。

(4)便利な多目的スペース

広範囲な学習活動に利用できる多目的スペース、また、スライドするパネルで間仕切りできるので小集会、研修活動等に便利です。

(5)ランチルーム

200人程度の生徒が会食できる食堂として同学年や異学年との会食を実施しています。

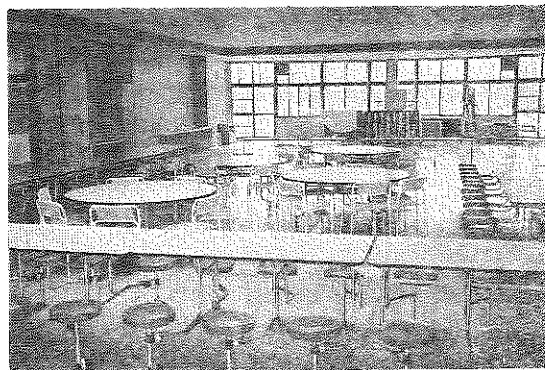
(6)防音・冷房設備のある音楽室

周囲を気にせず音響効果と防音設備のある教室で声や音の出せる音楽室、夏は冷房があり快適に音楽の学習ができそうです。

(7)整っている体育施設

1,000㎡のアリーナ、450㎡の格技場、25m（7コース）のプール、300mのトラック、7面のテニスコート、近代的なクラブハウス等生徒が心身を鍛える設備十分です。

以上本校の概況について記しましたが、この施設設備を活用して、本校の伝統づくりに邁進いたしますので先輩諸氏のご指導をお願いいたします。



地区だより

宇都宮地区

—全日中栃木大会の成功に向けて—

昭和63年度宇都宮市中学校長会は、退会者・入会者各4名の入れ替えがあり、柳田明会長（一条中、留任）の下に、従来通り河内郡中学校長会との緊密な連携を図りつつ、新たな意欲と決意を持って発足した。

標題にも示したように、本年度の目玉は何と言っても全日中栃木大会の開催であり、その成功に向けて各会員がそれぞれの立場と責任において鋭意努力を続けているところである。4月以降、各種の研修会の席上、本大会に関する報告・連絡と協議がなされ、真剣で意欲的な取り組みが日を追って盛り上がりを見せている。大会会場を引き受ける地区の校長会として、誠意と協力体制により有終の美を飾るよう努めたいと願っている。

校長会独自の研修として、県子ども総合科学館（宇都宮市西川田町）の施設見学により科学技術の進歩と今後の見通しについて新たな知見と認識を得たこと、恒例の高校長との連絡会で大きな収穫を得たことを付け加えておく。

小山地区

—小山市の研究活動概況—

3月末に3人の先輩をお送りし4人の仲間を迎え、新設乙女中学校の発足で11校になりました。

新任校長2名、小学校長から転入2名、市内異動1名、異動なし6名、63年度末の定年者なし。

中学校部会組織、会長植野樹郎（間々田中）、副会長塚原規矩郎（小山三中）、庶務会計海老原丘（小山中）、監事田中哲夫（大谷中）。

研修主題 「21世紀を拓く日本人を育成する中学校教育の創造」＝新教育課程への準備と学校経営＝①基礎・基本の概念と内容②個性重視の教育の2点にしばって本年度は研修を進める。猪瀬博

（豊田中）研修部長を中心に、資料の準備を整え毎回宿題を課して各自の事前研修を深め大いに論議を交している。なお、小中全体研修では、津布楽宇大教授の「新教育課程と学校経営」、テーマに基づく先輩校長の講話は新井正義先生（喜連川中）から、一般教養として民間人による経営考を呉光KK社長丸山光男氏にお伺いする予定です。この間にも各学校の現況などを報告し合い意見を交換しながら学校経営の充実を図っている。

上都賀地区

—研修計画の概要—

教育課程審議会答申では「21世紀に向って国際社会に生きる日本人の育成」を視点に、国民として必要とされる基礎的・基本的内容を重視し個性を生かす教育・自ら学ぶ意欲をもち社会の変化に主体的に対応できる、豊かな心をもちたくましく生きる人間の育成を図ることが提言された。

上都賀地区校長会の研修計画でも「21世紀を拓く日本人を育成する中学校教育」の主題を受け、「21世紀の展望にたった教育課程」の研究を推し進めている。視点としては、(ア)未来を展望した教育課程の編成・実施。(イ)小中高の関連を考えた教育課程。(ウ)人権尊重教育・国際理解教育の推進。

佐藤太袈夫会長、鈴木繁研修部長を中心に年間3回の定例研修会を設けて、32人の部員が3分科会に分かれて研修している。各分科会の主題は、

- ①基礎基本を生かし尊重する教育の充実
 - ②教育課程の編成と実施の中で生徒の基本的生活習慣の形成をどのように図ったらよいか。
 - ③豊かな心をもちたくましく生きる人間の育成
- なお、研究にあたって、「いきいき栃木っ子3あい運動」や全日中栃木大会との関連を図っている。

地区だより

宇都宮地区

一全日中栃木大会の成功に向けて一

昭和63年度宇都宮市中学校長会は、退会者・入会者各4名の入れ替えがあり、柳田明会長(一条中、留任)の下に、従来通り河内郡中学校長会との緊密な連携を図りつつ、新たな意欲と決意を持って発足した。

標題にも示したように、本年度の目玉は何と言っても全日中栃木大会の開催であり、その成功に向けて各会員がそれぞれの立場と責任において鋭意努力を続けているところである。4月以降、各種の研修会の席上、本大会に関する報告・連絡と協議がなされ、真剣で意欲的な取り組みが日を追って盛り上がりを見せている。大会会場を引き受ける地区の校長会として、誠意と協力体制により有終の美を飾るよう努めたいと願っている。

校長会独自の研修として、県子ども総合科学館(宇都宮市西川田町)の施設見学により科学技術の進歩と今後の見通しについて新たな知見と認識を得たこと、恒例の高校長との連絡会で大きな収穫を得たことを付け加えておく。

小山地区

一小山市の研究活動概況一

3月末に3人の先輩をお送りし4人の仲間を迎え、新設乙女中学校の発足で11校になりました。

新任校長2名、小学校長から転入2名、市内異動1名、異動なし6名、63年度末の定年者なし。

中学校部会組織、会長植野樹郎(間々田中)、副会長塚原規矩郎(小山三中)、庶務会計海老原丘(小山中)、監事田中哲夫(大谷中)。

研修主題 「21世紀を拓く日本人を育成する中学校教育の創造」=新教育課程への準備と学校経営=①基礎・基本の概念と内容②個性重視の教育の2点にしばって本年度は研修を進める。猪瀬博

(豊田中) 研修部長を中心に、資料の準備を整え毎回宿題を課して各自の事前研修を深め大いに論議を交している。なお、小中全体研修では、津布楽宇大教授の「新教育課程と学校経営」、テーマに基づく先輩校長の講話は新井正義先生(喜連川中)から、一般教養として民間人による経営考を呉光KK社長丸山光男氏にお伺いする予定です。この間にも各学校の現況などを報告し合い意見を交換しながら学校経営の充実を図っている。

上都賀地区

一研修計画の概要一

教育課程審議会答申では「21世紀に向って国際社会に生きる日本人の育成」を視点に、国民として必要とされる基礎的・基本的内容を重視し個性を生かす教育・自ら学ぶ意欲をもち社会の変化に主体的に対応できる、豊かな心をもちたくましく生きる人間の育成を図ることが提言された。

上都賀地区校長会の研修計画でも「21世紀を拓く日本人を育成する中学校教育」の主題を受け、「21世紀の展望にたった教育課程」の研究を推し進めている。視点としては、(ア)未来を展望した教育課程の編成・実施。(イ)小中高の関連を考えた教育課程。(ウ)人権尊重教育・国際理解教育の推進。

佐藤太袈夫会長、鈴木繁研修部長を中心に年間3回の定例研修会を設けて、32人の部員が3分科会に分かれて研修している。各分科会の主題は、①基礎基本を生かし尊重する教育の充実 ②教育課程の編成と実施の中で生徒の基本的生活習慣の形成をどのように図ったらよいか。 ③豊かな心をもちたくましく生きる人間の育成

なお、研究にあたって、「いきいき栃木っ子3あい運動」や全日中栃木大会との関連を図っている。

第39回全日本中学校長会研究協議会栃木大会関係諸連絡

大会事務局から

一大竹幸雄事務局長一

一紅葉映える日光の山なみと、みどり豊かな下野の里へーようこそー 昭和63年10月20日、21日の両日、宇都宮市文化会館をメイン会場に、8分科会場において「21世紀を拓く日本人を育成する中学校教育」を主題に盛大に開催されます。

本県172校の中学校長にとって50年に1度の大変に名誉あるイベントであります。県中学校校長会あげて大会の成功のため頑張っております。

関係機関各位の御指導、御協力をよろしくお願い申し上げます。

庶務部から

一關平部長一

庶務部のしごとは文字通り種々雑多な事務で、各部の活動が円滑にできるように、側面から協力するのが本務と考えております。

特に、表面に出ることよりも裏方的存在で、19日の全日中常任理事会、全日中理事会、全体協議会運営委員会、分科会運営委員会等々の準備が意外に気をつかいます。他県の大会などに参加し、『いろいろ準備大変だったでしょう』と言っても、ホントのところはわかりませんが、良い勉強をさせていただきます。ご協力お願いします。

会計部から

一大関三良部長一

賛助会費の募集即ち賛助会員の募集につきましては各地区理事さんをはじめ各地区の校長先生には大変お骨おりをいただきました。おかげをもちまして、地区によりましては予定額の4倍にも及ぶご努力をいただいております。資金に苦勞しております。会計部としては感謝にたえないところです。

実施要項等の予算書ですすでご承知のことと思いますが本大会は関係諸団体から多額のご援助のもとに予算が成立しているわけです。これら関係団体に対しても感謝の意を表すところです。折がありましたら会員の皆様方からも一言お礼をお願いできますればさいわいです。

研究部から

一安川一男部長一

全日中栃木大会運営要項に示すごとく、研究部は、次の四つの係で仕事を分担している。

- (1)大会誌編集係 阿部豊係長を中心に昨年度から着々と準備し、現在は、第1回目の校正の段階に入っている。
- (2)分科会運営係 星野享央係長のもと8分科会の運営をいかにして効果的に運ぶか、その企画を担当している。
- (3)記録・写真係 鈴木基司係長グループが担当であるが、主な仕事は大会結果の報告であり、「中学教育1月号」掲載原稿70頁分の編集(11月20日提出)
- (4)宣言・速報係 横嶋孝夫係長扱いで、文字通り一夜の編集整理という仕事である。

運営部から

一池田久部長一

各係の先生方の努力により、計画どおりに諸準備が進められております。

会場については、正副部長と係長が各会場の責任者を訪問し、会場の運営や設営について協議確認いたしました。立看板、大会名等の標示類も検討発注し、消防署、警察署等の関係機関への連絡届出や、アトラクションの郷土芸能出演者との打合せもそれぞれ完了、費用も審議し予算化されました。今後、運営部の全体会を開き、細部について協議し、本大会の運営が円滑に支障のないよう万全を期す所存であります。

会員部から

一齋藤操部長一

○去る6月末日をもって本大会の参加者、宿泊者数がまとまり、会員部としても具体的な活動に入った。他県からの参加者数は1,674名、宿泊関係では10月19日泊634名、10月20日泊1,177名となり、18の宿舎に割付け作業中である。なお教育視察はA=14名、B=44名、C=29名、D=43名で極めて低調となった。又輸送関係については関東バスの増発や、大会終了時の増発、分科会場への往路、帰路の臨時バスの台数や料金が決定されました。

○去る7月11日(月)大会開催日の昼食弁当については、市内フタバ食品、黒磯市内高木弁当に決定。

関ブロ茨城大会に参加して

事務局次長 下里 信 弘

昭和63年6月9日(木)、10日(金)の両日にわたり、茨城県民文化センターにおいて、第40回関東甲信越地区中学校長研究協議会茨城大会が開催され、各地区から1,100人余の会員の方々が集まり、また、県内からも柳田会長さんをはじめ50余名の方々が参加しました。例年、この会に参加した報告は事務局長がすることになっているとのことですが事務局長が参加できなかったため、次長が代って書くようにと依頼がありました関係上、急拠報告文を寄せた次第であります。

第1日目の9日9時45分に開会式が力強くしかも厳肅な雰囲気の中にすすめられ、大会会長、大会委員長等のあいさつの中にも「21世紀に向かっての第一歩」であり、そのためにも「論から実践への段階であることが強調され、私たちは学校において具体的な形で実践する責務を痛感いたしました次第であります。

開会式の後には文部省から次の事項について説明がありました。

1. 教育課程の改善のねらいとその内容
2. 生徒指導上、登校拒否児・体罰・校則の内容及び指導・運用のあり方について
3. コンピューターの教育的利用の推進

この後、全体協議にはいり、「21世紀を拓く日本人を育成する中学校教育の創造」という協議題のもとに水戸市の藤田校長が「個が生きる力」を育てる教育実践ということで提案がありました。

昼休みには地方色豊かな大洗磯節保存会のメンバーによる茨城の民謡や踊りがくりひろげられ、私たちの目を楽しませてくれました。午後からはそれぞれ9分科会にわかれ熱心な討議が行われたとのこと。2日目には各分科会からの報告があり、その後「光陰の虚像と実像」と題しての記念講演があり、黄門のブラウン管にない面の事実を知ることができました。次期開催の山梨県からのあいさつがあり、閉会式にはいりました。

私の朝会訓話から

— さかさまの地図 —

宇都宮市立姿川中学校長 薄井 健郎

《テレビ朝会での話 昭63.4.13(水)》

ここに1枚の世界地図があります。南と北がさかさまで、オーストラリアやニュージーランドが一番上に、日本やソ連やアラスカが下に置かれています。印刷の間違いでも悪ふざけでもない、れっきとしたオーストラリア製の地図なのです。皆さんの英語の教科書にもこの地図のことが出ています。オーストラリアは今までいつも地図の底に横たわり、上からのしかかるアジアやヨーロッパなど巨大な大陸の重みを両肩で支えるような恰好に描かれていました。私たちの見慣れた地図に対して、そうでない見方もできるのだということを、オーストラリアの人たちが示してくれました。

それにしても、南北をさかさまにした世界地図は何とも奇妙なおもしろい形ですね。確かにまぎ

れもない私たちの地球の姿です。ちょっと逆の方向から見ただけで、こんなにも違った感じのものになってしまう。こういう地球の姿を、皆さんは今までに思い描いたことがありますか。私は合衆国でアメリカ大陸を中心に置いた地図を買い、アフリカに住んでアフリカ大陸が真ん中に堂々と腰をすえた地図を見たことがあります。そのとき私の関心は、日本がどのあたりにどのような形で出ているかということでした。地球全体を別の方向や角度から見直すことには気づきませんでした。

私たちが日ごろ当たり前と思っている事物や現象を別の観点からとらえ直し、反対の立場から考え直してみる。すると思ってもみなかった形や隠れたよさが見つかり、目の前に新しい世界が開けることがあるかも知れません。固定観念の打破、発想の転換を、ただの口先だけでなく、実際に私たちの周囲の物事に適用してみることの大切さを、さかさまの地図が私に教えてくれました。